

第1回 伊丹市公共施設マネジメント推進検討委員会 議事概要

開催日時	令和3年10月29日（金）午後3時30分～5時30分
開催場所	伊丹市役所議会棟3階 議員総会室
出席者	青木委員、太田委員、直田委員、田爪委員、堤委員、細井委員、若本委員、和田委員
欠席者	なし
事務局	総合政策部長・政策室長・施設マネジメント課長他
傍聴者	3名
議題(案件)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会挨拶 2. 委員紹介 3. 委員長の選任 4. 諮問 5. 委員会の会議録及び傍聴に関する取り扱いについて 6. 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 公共施設マネジメント推進検討委員会の設置について (2) 伊丹市を取り巻く社会的状況 (3) 伊丹市の公共施設の現状について 7. その他
資料	資料① 例規集（伊丹市公共施設マネジメント推進検討委員会） 資料② 公共施設マネジメント推進検討委員会の設置について 資料③ 伊丹市を取り巻く社会的状況 資料④ 伊丹市の公共施設の現状について 資料⑤ 市民アンケート調査結果（R3年度実施） 諮問書（写し） 伊丹市公共施設マネジメント推進検討委員会委員名簿・配席図

議 事 の 経 過	
発言者	発言の内容
委員	<p>開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・録音、写真撮影の確認 ・資料確認 <p>1 開会挨拶 (総合政策部長より挨拶)</p> <p>2 委員紹介 (事務局より委員を紹介)</p> <p>3 委員長の選任</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員総数 8 名のうち 8 名が出席しており、本会議が成立していることを確認。 ・事務局案により、委員長に和田委員、委員長代理に若本委員を選出。 (委員長より挨拶) <p>4 諮問 (市長より委員長に諮問)</p> <p>5 委員会の会議録及び傍聴に関する取り扱いについて (委員と事務局職員の自己紹介)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「伊丹市審議会等の会議の公開に関する指針」第 5 条第 1 項に基づき、会議録は会長で策定することとする。 ・委員会の会議録に署名人を名簿順で指名。(青木委員と太田委員) (事務局から、資料①伊丹市公共施設マネジメント推進検討委員会傍聴要領(案)について説明) ・傍聴要領(案)について委員より了承。 <p>6 議題(1) 公共施設マネジメント推進検討委員会の設置について 議題(2) 伊丹市を取り巻く社会的状況 議題(3) 伊丹市の公共施設の現状について (事務局から、資料②～④について説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画を策定された際の前提条件について、床面積 10%以上削減と 200 億円の削減目標、どちらが優先なのか。目標の重さによって、取組の評価が変わってくるのでは。床面積が変わらなくても、コストが下がったり収益が増えることによって 200 億円が達成できるかもしれない。本当にやりたいことをハッキリさせるべき。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・改修、更新、保全、それぞれ意味が異なる。用語の定義・使い分けを明確にすべき。 ・保全費用の見通しについて、試算条件を示してもらいたい。例えば昭和40年代に建設された建物はコンクリートの品質が悪いが、その建替えについて考慮しているのかどうか。また、除却後の土地は売却するのか、建て替えのために新たに土地を取用する必要があるのか等、条件設定によって、試算結果が大きく上下する可能性がある。議論のスタートラインを、はっきり示してほしい。 ・公共施設マネジメントの目的のひとつは持続可能な行財政運営であり、それを建物施設として実現するための指標として、床面積削減がある。 ・用語の定義については、今後わかりやすく整理することとしたい。
委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・床面積削減に取り組みながらも、ニーズに応じた施設整備を実施した結果、床面積は増えているとのことだが、財政負担は増えているのか。 ・増加要因のうち最大である外郭団体の解散に伴う資産譲渡については、特段財政負担の増加はないものとみている。
委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の耐震性について。住宅施設やスポーツ施設など、生活の拠点や避難所になりうる施設の耐震性について、どのように考えているのか。 ・住宅施設については、耐震補強するものと将来的に用途廃止するため住み替えをすすめるものに分類し、対応している。スポーツセンターの体育館など避難所に指定されている施設は、耐震補強等により耐震性に問題はないものと考えている。
委員 事務局 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅施設について、今後の見通しは。 ・計画に基づき順次対応しているが、住み替えについては住人個々の事情もあるためはっきりと見通せるものではない。 ・現在、耐震性のない市営住宅にお住まいの方について、順次耐震性のある市営住宅へと住み替えをいただいている。退去が完了した建物については解体する見込み。それと並行して、耐震補強やエレベーター設置などの改造も行っている。
委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・改造をしているということは、今後も残すということか。 ・耐用年数が残っているものについては、長寿命化を図っているところ。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市民としては「床面積10%削減」はなじみがあり、取組の継続性をアピールするためにも、変えない方がいいように思う。たとえば、いまの時点から10%削減、といった考え方もあるのでは。 ・再編により地域の施設が減るのは仕方がない部分もあるが、なぜ地域の施設が廃止になるのか、市民にわかりやすい形で情報提供してほしい。 ・削減・再編ありきで、地域コミュニティが分断されないようにしていただきたい

委員長	<ul style="list-style-type: none"> い。 ・小学校区にとらわれず、市全体で包括的な再編を考えてほしい。 ・中央公民館の機能移転に際して、利用者の活動が継続できるよう、配慮されていて安心した。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・量が減って質が悪くなるということがないよう、全体としてバランスよく格差がないよう、目配りしていただきたい。 ・「床面積 10%削減」は、市民に浸透していると感じている。情報提供については、十分すぎるということはないので、今後も工夫しながら継続していきたい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校区をまたいだ再編についても、今後検討してまいりたい。 ・時代の変化や地域性を踏まえ、再編の検討をすすめていただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と保護者の関係は、新型コロナの影響もあり変化している。全児童にタブレットが配布され、学校に行かなくてもオンラインで授業が受けられるようになってきた。今後、児童数の減少とともに、学校のあり方は多様化してくると思うが、避難場所など小学校が各地域の拠点であることは変わらない。学校施設が公共施設のうち大きな面積を占めていることも初めて知ったので、学校のこれからのあり方について、保護者に対しても発信してほしい。少しずつでも未来に向かって変わっていったら。 ・機能の集約、複合化という表現だけでは、まとめただけとの印象を受ける。親としては、内容がわからないと、ただ不便になるという意見に偏ってしまい、なかなか賛成しにくくなる。たとえば児童の居場所づくり、異年齢の交流促進など、なぜ集約するのか、理由を丁寧に説明してほしい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・学校施設はボリュームが大きく、新型コロナの影響も非常に大きかった施設だと思う。学校の新たな役割についても、今後検討が必要。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・児童数は減少傾向にあるものの、現在の学校施設に大きな余裕があるものではないと認識している。一方で、今後、施設の複合化・集約化を検討するにあたり、活動の受け入れ先としての役割を果たしていく存在であるとも思っている。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・複合化・集約化が「合理化」と聞こえてしまう点については、情報発信のなかで工夫していきたい。 ・ポジティブに受け入れられるよう、しっかりと情報を開示していただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料に今後 30 年間の費用見通しがあったが、30 年ということは、我々の子供世代にも影響がある。ニーズの変化を踏まえて、施設の必要性はしっかり検討していただきたい。たとえば働いている世代はほとんど公共施設を利用することがないが、様々な世代のライフスタイルを考慮したうえで、どれだけの施設が必要なのか、考えたい。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場も含め、高齢者が無料で利用できる施設がある。利用者から少しでも利用料を徴収できれば、運営費の足しになるのではないか。
委員長 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・受益者負担の考え方は、当たり前になってきている。 ・適正な受益者負担を実現するため、不断の見直しを行いたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・マネジメントを行うには体制・手法の検討が必要。現状把握は、建物の状況だけでなくコスト構造の把握や類型化など、様々な側面から行うべきであり、環境など考えられる評価指標を列挙し、個別の事情も踏まえたうえで計画を作るべき。次回の委員会では、これまでの取組内容について、ご紹介いただきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設白書では、建物の老朽度やコストなど総論的にまとめている。今後、なるべく手間のかからない方法で情報更新できないか検討している。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・白書を拝見したが、このレベルの情報量では、計画がつかれない。施設単位ではなく、部屋単位で利用者数・利用目的等を毎年把握するべき。詳細なデータに基づいた提案であれば、利用者にも納得感がでるのでは。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・中央公民館の機能移転に際しては、各部屋の詳細な稼働率等を分析して計画を検討したが、委員ご指摘の詳細な、全施設を網羅した詳細データは、現在把握できていない。
事務局 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・データの収集・更新が容易になる仕組みを考えたい。 ・いったん分析については考えず、データ収集に注力すべき。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・更新と長寿命化の費用比較をしていただきたい。 ・「床面積 10%削減」は厳しい目標という印象。公共施設は人口と連動して減らせるものもあれば、減らせないものもある。 ・コストの平準化については、どのように検討しているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・地方債や基金の活用により、年毎の負担については平準化されている。
委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ランニングコストについては、どのように考えているのか。 ・行財政プランにおける公共施設マネジメントの事業費削減目標は、イニシャルコスト・ランニングコストあわせての目標。行財政プランにおける取組にも電力・ガスの自由化や指定管理者制度の導入などを掲げ、コスト削減に取り組んでいる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年の運営経費も金額が大きいので、少しずつ床面積を減らすのではなく、コスト削減効果が大きいところから取り組むべきではないか。 ・魅力あるまちづくりにつながる施設の有効活用は、非常に重要な視点。機械的に判断できる問題ではないが、しっかり検討してもらいたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ランニングコストや施設の有効活用といった視点は、評価フローにどのように組み込むべきなのか、しっかり考えたい。

委員長	<ul style="list-style-type: none"> 魅力あるまちづくりには、SDGs の観点も必要。市民に市の政策について情報提供するうえで、わかりやすい切り口になるのでは。
事務局 委員長	<p>7 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 第2回伊丹市公共施設マネジメント推進検討委員会：来年1月頃を予定 本日の会議はこれで終了する。次回についても、万障繰り合わせの上ご出席いただきたい。 <p style="text-align: right;">以 上</p>

以上のとおり、第1回伊丹市公共施設マネジメント推進検討委員会議事録として確認します。

令和3年 月 日 委員 _____

令和3年 月 日 委員 _____